

EXPO Corporate Pavilions

21世紀の企業と
博覧会の新しい関係

万博と企業

産業革命の時代から
今日まで続いている企業と博覧会の関係。
企業が開発した技術が博覧会で
実際に使われるなど、
博覧会と企業の切っても切れない関係は
19世紀から現在までに及んでいる。



博覧会と 企業の歴史

第1段階 1st Stage

「発明」が産業革命を支えた

近代博覧会の原型は、1475年にフランスのルイ11世がロンドンで開催した「フランス物産展」であると言われている。

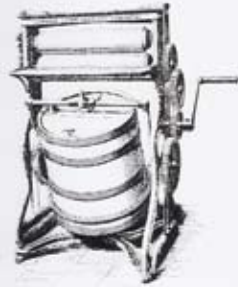
そして、1851年にロンドンのハイドパークで開かれた「第1回ロンドン万国博覧会」で国際博覧会の歴史の幕が開いた。この万博は「The Great Exhibition (大博覧会)」と呼ばれ、25カ国が参加した。1851年といえば日本では嘉永4年、ペリー来航から2年前のことである。

この19世紀後半の時代、英国の産業革命を核に、企業の先端技術や開発された実用品が次々と出展された。これら展示は、技術や商品を以前のものと明確に比較できる機会をつくり、また、技術交換の契機にも繋がるなど、企業全体の発展を大きく促進した。

今回の上海国際博覧会では、11万㎡の企業ゾーンが設定されている。現在16企業の参加を期待していると同時に、様々な分野の専門家を招きながら、パビリオン建設も含めた企業貢献の姿を引き出す手法などを検討し合っている。上海国際博覧会のなかでもすでに、諸外国の企業を含めた民間企業ゾーンは絶対に欠かせないものとなっているのである。



1876年フィラデルフィア博で出展された蓄音機



1862年ロンドン博で出展された手動洗濯機

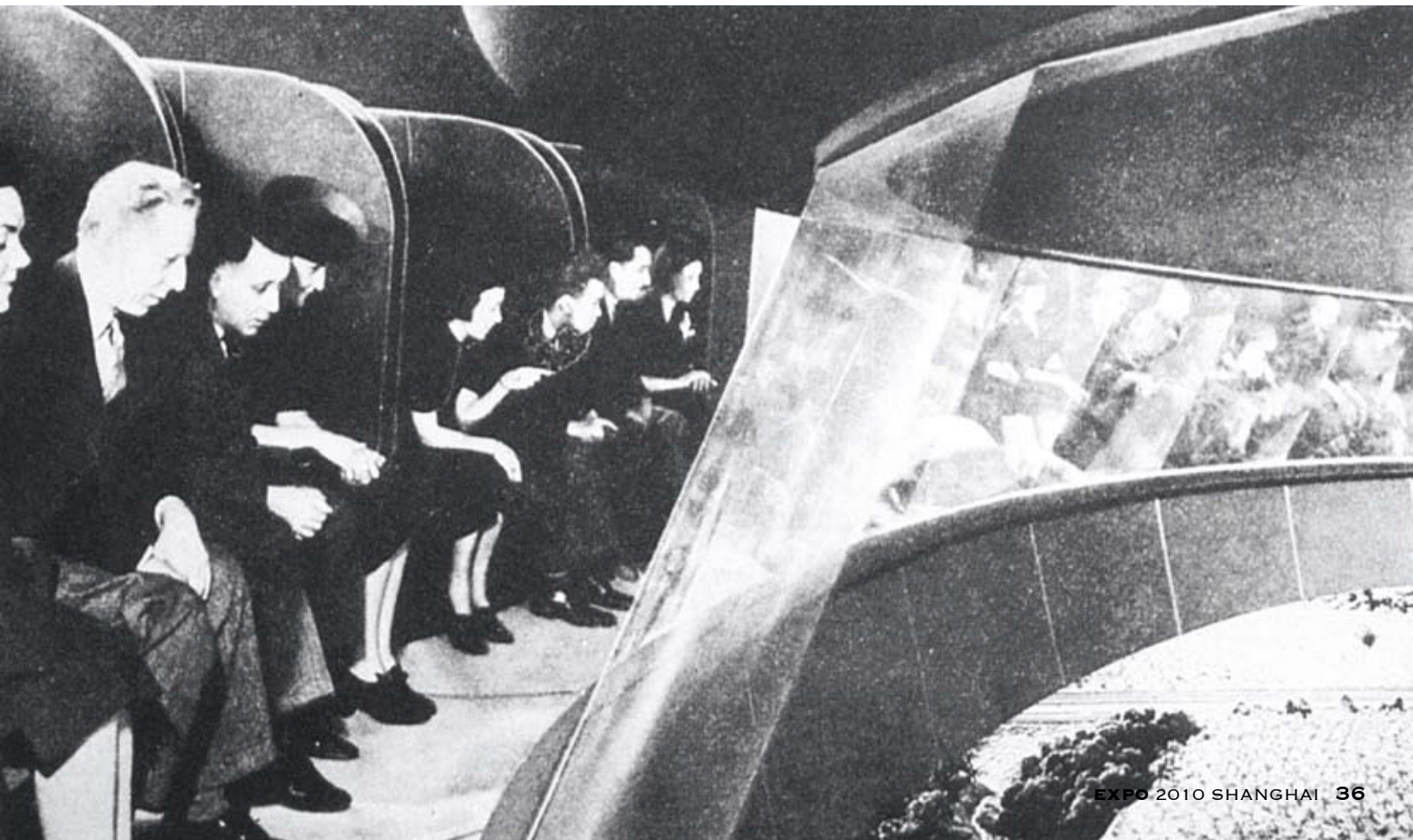
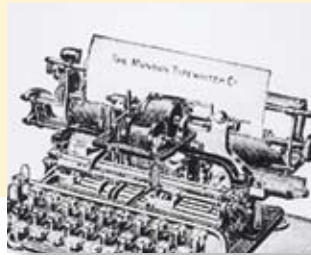


1862年ロンドン博で出展された蒸気機関車



数多くの発明品を万博に出展した発明王エジソン

1893年シカゴ博で出展されたタイプライター



企業パビリオンの確立

20世紀では企業のパビリオンが造られ、技術と商品のプロモーションを助けた。1933年から34年にわたって開催されたシカゴの国際博覧会は明快な博覧会のテーマを設定し、独立した企業パビリオンが登場した。

国際博覧会に「world」がつけられたこと、さらに、「独立した企業パビリオン」が登場したことは、当時とても画期的な出来事であった。

これは1916年にすでに設立されていたアメリカの国立調査機構（The National Research Council）の提言に由来するものであった。この組織は科学技術、工業、軍需関連間の共同研究を促進していた。博覧会を開催するにあたり、科学的要素を主テーマにするべきだと要請していたのは当機構の科学カウンセリング委員会であった。

その結果、シカゴ国際博覧会では、ゲート近くにクライスラー、GE、シアーズの独立したパビリオンが立ち並び、それ以降の国際博覧会のあり方に大きな影響を与えた。

1939ニューヨーク博のコダック・パビリオン



1939年ニューヨーク博のゼネラルモーターズ・パビリオン

1992年セビリア博のシーメンス・パビリオン



EXPO & Corporate Pavilions



第3段階

3rd
Stage

21世紀の国際博覧会 環境保全と社会的責任

ここに挙げた「環境」と「社会的責任」は個々の課題ではなく、この二つの要素は互いに関係し合って成立しているといえる。

20世紀時代の博覧会もそうであったが、企業パビリオンというのは、万博憲章に基づき必ず出展しなければならないものではない。

しかし現代の博覧会では、企業が出展するパビリオンが来場者の人気の的となっている。

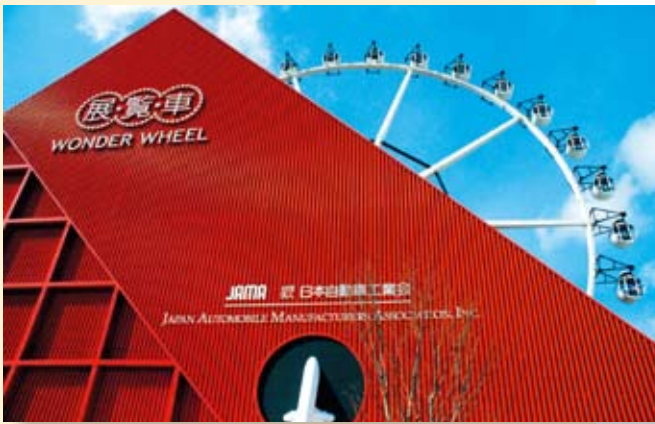
また環境保全という21世紀的な課題に対しては、各産業別の企業が開発する「環境制御技術」が不可欠である。

それは、工場から出る廃棄物問題の解消や製品化の過程における省エネルギー対策など、これまでの企業の「有るべき姿」として自社内の「環境制御、保全」にどこもめるばかりではなく、地球全体の「環境価値創造」として、いかなる社会的貢献と責任を遂行しているか——これが問われる時代となったのである。

したがって、単に面白可笑しい内容を来場者に与え満足させていた時代が終わり、先端技術開発を駆使した「環境制御や保全」への取り組みが実用化されそうな技術を率先して「企業パビリオン」に組み込んだり、またそういった商品を展示するなどの試みがこれからの博覧会では要求されることになるだろう。



愛・地球博のトヨタ館



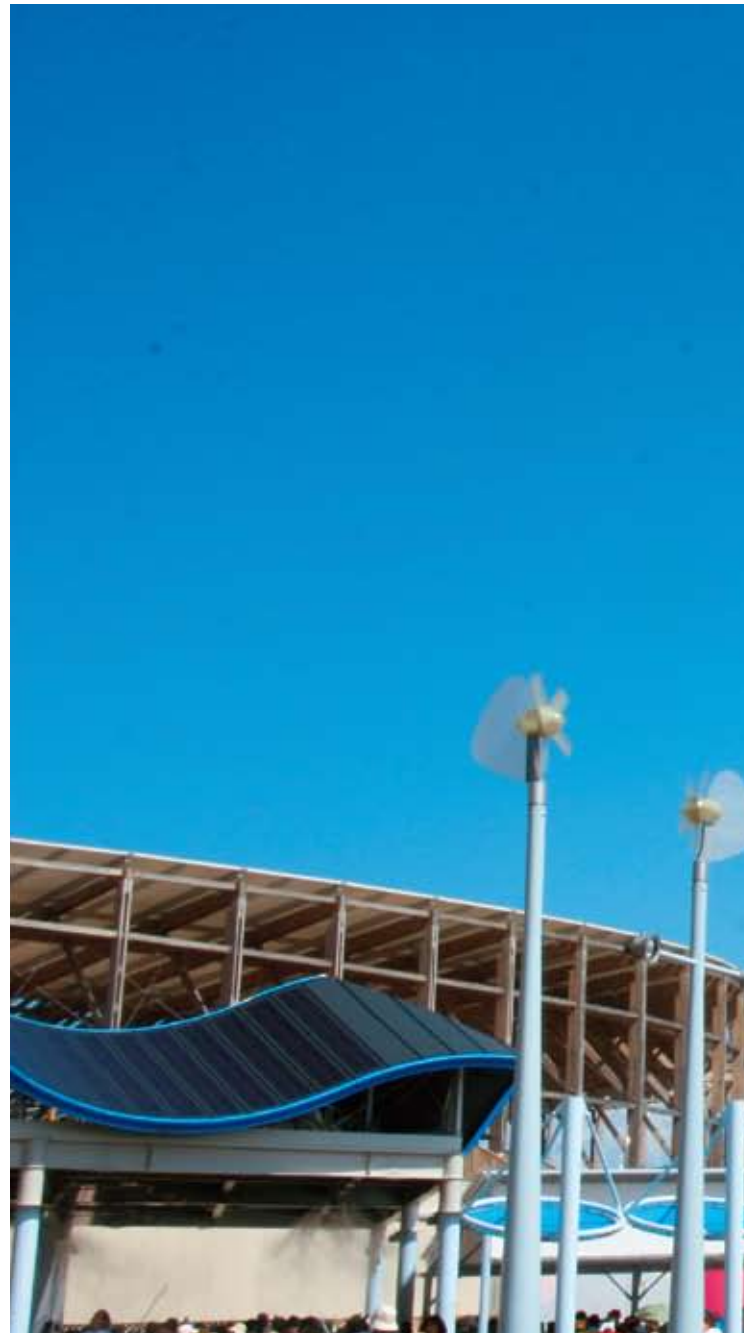
愛・地球博の日本自動車工業会パビリオン「ワンダーホイール観覧車」



愛・地球博の日立グループ館



愛・地球博ギリシャ館



— BIE 議長の呉建民氏が「博覧会で示されたものは、50年にわたりその成果を持続する力を持っているだろう」と指摘するよう
うに、20世紀、21世紀の博覧会は開催市
全体、会場、そしてパビリオンなどのすべ
てにおいて、企業が保有あるいは開発する
先端技術を活用していくことが重要になっ
てくる。

Better City, Better Life 創造のために、
企業間競争の質も変化していくだろう。社
会に対するサービスの提供のために、共同
研究、共同開発など企業同士が「大きな博
覧会家族」となって、ハイレベルの競争や
協調を実現させる時代がきたのである。

上海国際博覧会は参加企業に対し、こう
いった機会とその恩恵を与えるものである
ことを確信している。